

めぐみイエス・キリスト教会

2021年5月23日(日)第四主日ペンテコステ礼拝
週報「通算第558号」



2021年標題聖句

ヨハネの福音書20章21節～22節

《イエスは再び彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父が私を遣わされように、私もあなたがたを遣わします。」こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。』》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌435「罪に沈む汝が友に」 p. 702

【交読文】 No.7詩篇第23篇 p. 884

【賛美Ⅱ】 新聖歌416「聖霊来たれり1, 2, 5節」 p. 668

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル賛美No.4「天には救いの喜び」

【聖書朗読】 使徒の働き2章1節～4節(新約p. 233下段)

【礼拝説教】 《聖霊が降られた時》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌166「威光・尊厳・栄誉」 p. 236

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 使徒の働き2章1節～4節(新約p. 233)

2:1 五旬節の日になって、皆が同じ場所に集まっていた。

2:2 すると天から突然、激しい風が吹いて来たような響きが起こり、彼らがすわっていた家全体に響き渡った。

2:3 また、炎のような舌が分かれて現れ、一人一人の上に留まった。

2:4 すると皆が聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに、他国のいろいろな言葉で話し始めた。

●ポイント1. 主イエスが、ヨハネからバプテスマを受けられた時には？

※ルカの福音書3章21節～22節「聖霊が鳩のような形で」 (新約p.114)

3:21 さて、民がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマを受けられた。そして祈っておられると、天が開け、

3:22 聖霊が鳩のような形をして、イエスの上に降って来られた。すると、天から声がした。「あなたは私の愛する子。私はあなたを喜ぶ。」

※ヨハネの福音書1章32節～34節「ヨハネの証言から」 (新約p.176)

1:32 そして、ヨハネはこのように証した。「御霊が鳩のように天から降って、この方の上にとどまるのを私は見ました。

1:33 私自身もこの方を知りませんでした。しかし、水でバプテスマを授けるようにと私を遣わした方が、私に言われました。『御霊が、ある人の上に降って、その上にとどまるのをあなたが見たら、その人こそ、聖霊によってバプテスマを授ける者である。』

1:34 私はそれを見ました。それで、この方が神の子であると証しをしているのです。」

●ポイント2. なぜ「炎のような舌」なのか？

※マタイの福音書3章11節「聖霊と火のバプテスマ」 (新約p.4)

3:11「私はあなたがたに、悔い改めのバプテスマを水で授けていますが、私の後に来られる方は私よりも力のある方です。私には、その方の履き物を脱がせて差し上げる資格もありません。その方は聖霊と火であなたがたにバプテスマを授けられます。」

●ポイント3. 「聖霊が臨まれた」と言うこととは？

※ヨハネの福音書14章16節～17節抜粋「もう一人の助け主」(新約p.214)

14:16「私が父にお願いすると、父はもう一人の助け主をお与え下さり、その助け主がいつまでも、あなたがたと共にいるようにして下さいます。

14:17 この方は真理の御霊です。世はこの方を見ることも知ることもないので、受け入れることができません。あなたがたは、この方を知っています。この方はあなたがたと共におられ、また、あなたがたのうちにおられるようになるのです。」

※ヨハネの福音書20章19節～22節「復活の主の言葉」(新約p.228上段)

「平安があなたがたにあるように。」「聖霊を受けなさい。」

◎先週のメッセージの概要【主イエスの昇天】

《本日は昇天記念礼拝となります。主イエスは、昇天については、二回ほど預言されています。一回目は、エルサレムにおいて、ニコデモが夜遅く、主イエスと弟子たちの所に尋ねて来た時です。『「誰も天に上った者はいません。モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。それは、信じる者が皆、永遠の命を持つ為です。」』と。

二回目は、主イエスご自身が「生ける命のパン」であることを、弟子たちに教えられた時でした。「私の話があなたがたをつまづかせるのか。それなら、人の子がかつていた所に上るのを見たら、どうなるのか。」と。

ルカの福音書の並行記事では、『それからイエスは、弟子たちをベタニアの近くまで連れて行き、手を上げて祝福された。そして、祝福しながら彼らから離れて行き、天に上げられた。』となっています。

この時、大宣教命令がなされ、聖霊降臨の預言がなされ、言われたとおりにオリーブ山から上って行かれるのです。主は両手を挙げ、弟子たちを祝福し、彼らの見ている中、ゆっくりと空中に上って行かれます。まさに天から降って来た神の御子は、もといいた場所に帰って行くのです。そして雲の中に見えなくなります。そこへ、二人の御使いが現われます。「ガリラヤの人たち、どうして天を見上げて立っているのですか。あなたがたを離れて天に上げられたこのイエスは、天に上って行くのをあなたがたが見たのと同じ有様で、またおいでになります。」と、告げ知らせます。

ゼカリヤ書には、「主の日」の預言が書き記されています。「その日、主の足はエルサレムの東に面するオリーブ山の上に立つ」と。主イエスが地上から離れた、まさにその同じ場所に、やがて主は降り立つのです。

主は弟子たちに、「私の証人となります」と言われました。この言葉は彼らだけでなく、私たちにも向けられた言葉です。私たちも、主の証人となるのです。主イエスは、今も生きておられること、やがて再臨されること、主を信じる者には、永遠の命が与えられることを証して行くのです。》

◎お知らせ

※次回主日礼拝は5月30日(日)教会にて通常とおりに行ないます。聖書勉強会・祈り会は5月26日(水)各家庭にて行ないます。